

鯛焼

PLASTICS
100th
ANNIVERSARY

プラスチックのバイオニア

フェノールの夢、100年

石炭から生まれた プラスチック

高機能プラスチックの原料となるベークライトは、もともと石炭酸樹脂(フェノール樹脂)の商品名です。石炭酸樹脂は、1872年(明治5)に、ドイツの化学者がタール系染料の研究中に発見しました。地球の化石エネルギーとして堆積していた石炭から、新しい時代が拓かれたひとときでした。

日本の知恵、
プラスチックの知恵

鯛焼きにみる、 機能性のバランス

どこから食べるか、話題になるのが鯛焼き。餡が詰まった肉厚の頭か、パリッと固く香ばしい尻尾からいくかと、変化に富んだ食感を楽しむ日本の庶民的な焼菓子です。一尾ずつ金型を使って焼き上げる鯛焼きは「天然物」、複数を一挙に焼き上げるものは「養殖物」と呼ぶのだとか。金型に流し込んだ小麦粉が、その熱と圧で形が変わっていく様子も面白いものです。ところで、20世紀初め、米国のベークランド博士によって、鯛焼きのように金型に樹脂を流し入れ、熱と圧の微妙なバランスで開発されたのが、ベークライト樹脂成形法。鯛焼きと同じ、一度形になると、再び熱をかけても融けない成形法は、高機能プラスチックの基本になる画期的な成功でした。



プラスチックのバイオニア